



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和5年6月30日

食べることは生きること(魚戸おさむさんの講演) ～ 北海道高P連後志大会報告

第72回北海道高等学校PTA連合会大会後志大会が6月9・10日の2日間にわたって開催されました。本校からは角田PTA会長はじめPTA役員6名と事務局から3名の9名で参加しました。

1日目の総会では本校前PTA会長・梶本直哉様が功績者として表彰されました。また、『家裁の人』で知られる漫画家、魚戸おさむさんの講演「漫画と絵本で描いた食べること、生きること」が行われました。

魚戸さんは「食育」漫画家としても有名な方で、『食卓の向こう側コミック編』『いのちをいただく～みいちゃんがお肉になる日～』などを出版しています。その魚戸さんが紹介して下さったのが「弁当の日」です。これは香川県の小学校の校長をされていた竹下和男さんが始めた活動で、月1回自分で弁当を作って持ってくるというものです。買い出しから調理、片付けまで全て子どもに任せます。最初は先生方も保護者も猛反対だったそうですが、小学5・6年生の家庭科の授業で弁当の作り方を教えてから実施に踏み切ったそうです。はじめのうちは保護者が手伝ったりする生徒もいたそうですが、回を重ねるうちにそういう生徒はいなくなってくるのだとか。自分で作っていないことがだんだん恥ずかしくなってくるようです。そのうちお互いの弁当を見せたり、食べ合ったりするうちにクラスの雰囲気が変わり、いじめなどが起きない落ち着いたクラスになっていくといいます。私たちに見せてくれた写真では、小学1・2年生の子が弁当を持ってくる上級生の弁当を覗き込む姿がありました。その子が5・6年生になって弁当を持ってくると、やっぱり隣の小さな子が覗き込む、そういうつながりが生まれていくのだとおっしゃっていました。こうした活動によってご飯を作ることの大変さや有り難さを知り、お互いを思いやる子どもに育つとして今、小学校だけではなく中学・高校まで広がっているといいます。

「食べることは生きること」。本当にそう思います。とてもおもしろく、ためになった講演でした。



分科会:大人と子どもの望ましいコミュニケーション

始めに前小樽潮陵高校PTA会長・笹谷純代様からの講話があり、その後グループになって意見交換をしました。講話では笹谷さんが子育て中に参考になったり、気が楽になった言葉を紹介してくれました。

幼児期:「気をつけて」とだけ言えばいい

小学生:本を読む子どもにしたいのなら、お母さん、あなたが本を読みなさい

思春期:子どもに言われたことだけやりなさい

多くのことを話すのではなく、核心だけを伝えればよいのです。長くなったら聞かなくなるだけです。子どもが反発するのは親が無理強い時です。教育学者の汐見稔幸さんの言葉ですが「今が人類史上、最も大変な子育て」です。お父さん、お母さん、今でも十分頑張っています。

笹谷様の言葉に頷くことしきりでした。意見交換では「まず子どもの話を聞くことが大事」「こちらが待つことも大切」という意見がでていました。

ア-フェリー-団体男女準V全国へ

全道男子ア-フェリー-で男子個人では太田琉偉さん(3-3)が見事優勝。続く団体戦では男子(太田琉偉さん、小原有樹さん(3-5)、関井隆之さん(2-5))は準決勝でシュートオフ(サドンデス方式の延長戦)の末、札幌啓北商を5-4で下し決勝進出。女子(武田愛莉さん(3-1)、瀬谷優香さん(3-3)、藤井珀亜さん(3-4))も準決勝で札幌月寒に勝利し、決勝戦へ進出。決勝ではともに敗れ準優勝となりましたが、地元開催のインターハイ出場を決めました。

主将の太田さんは「全力で挑みます！」と意気込みを語りました。



(男子優勝の太田さん)

いざ全国の舞台へ!

放送局NHK杯朗読で優勝

NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会が行われ、朗読部門で小川さんが見事優勝し全国大会出場を決めました。全国出場は次のとおりです。

- ◆朗読:優勝 小川創さん(3-3)
- ◆アナウンス:12位 近藤采さん(3-5)
- ◆テレビドキュメント:7位

陸上部2名中距離種目で入賞

全道陸上で加藤哲太さん(3-5)が400mで5位、さらに須長柊太さん(3-6)が800mで6位入賞しインターハイ出場を決めました。加藤さんは長距離からの転向1年での快挙です。

この二人以外でも決勝進出を果たし、全国まであと一歩まで迫った部員もいました。自ら高い目標を持って練習に励んだ成果だと思えます。お疲れ様でした。

第30回 2年1組担任 杉崎 岳 教諭

『I+1』(アイ、プラス、ワン)



◆目の前のことに全力であたる

英語の期限付教諭として釧路東高に赴任した時の話です。初めて出勤した自分の机の上にアイスホッケーの防具一式が置いてありました。自分の役割は一目瞭然です。もうその日から生徒に教えられながらアイスホッケーを始めて、教職員チームにも所属してプレーするくらいにまでなりました。「目の前のことに全力であたる」。その結果、できることが一つでも増えたなら、それが自分の自信につながっていきます。教員としての基礎を部活指導から学んだように思います。

◆NZで多様性の本質を体感する

一方で自分の英語力をもっと向上させたいという意欲が湧いてきました。そこでワーキングホリデー制度を利用して1年間ニュージーランドで働きながら語学学校に通うことにしたのです。語学学校には様々な国の人が集まっていた。そこで情報を得てぶどう畑で働くことに決め、ホームステイ先も自分で直接交渉したのですが、「部屋をきれいにしてくれるから日本人ならOKだ」と言われました。サッカーW杯で日本人の行動が報道される前から日本人にそんな評価がされていたことに改めて驚きます。

さて、ぶどう畑には1年中、仕事があります。伸びた蔓を棚に巻き付ける作業、落ち葉の清掃…そして、収穫。収穫の時はさらに大勢の人が雇われます。それぞれ自分の籠に葡萄を収穫しては横に移動、その繰り返しで1kmぐらい。収穫した重さで報酬が払われるのですが、マネージャーが何かとごまかそうとするので喧嘩になったこともあります。一緒に働いていた人からは「なぜ日本人がこんなところで働いているんだ?」と聞かれたことがあります。「日本という国から出て、やったことのないことをしたいんだ」と答えたら、相手は不思議そうに「日本で働いた方

が多く稼げるだろ」と言っていました。確かに稼ぎを全て仕送りしていたタイの人もいましたし、私の言わんとするところは相手には伝わらないようでした。

本当に世界には色んな人がいて、色んな考え方があります。それがいいとか悪いとかじゃなくて、実際そうなのだから仕方ない。議論しても始まらないわけです。もう、それを受け入れるしかないのです。

◆現状から一つ成長する

こうした経験を経て、正教員として教壇に立つことができました。最初はいわゆる荒れた学校でしたが、真面目に学校生活を送ろうとする生徒を守るため、教員が一丸となって教育活動にあたっていました。2校目は広尾高校で地域で子どもを育てようとする中高一貫教育に携わることができました。そこで担任や部長職を経験し、教員として大きく育ててもらいました。そして今、三条で2回目の担任を持たせてもらっています。

こうして振り返ってみると私のスタンスは変わっていないと思います。目の前にあることに全力であたり、現状から一つ成長しようということです。ですから私は生徒たちにも今ある自分にプラス何か一つしてみようと呼びかけています。ちょっと格好つけて言うと『I+1』(アイ、プラス、ワン)です。



インタビュー

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

キラリ 三條生を勇気づける応援団(チア) リーダー 松浦花音さん サブリーダー 福田菜々美さん・中村美遥さん



コロナの第5類移行に伴い、様々な活動が復活しています。そこで大いに活躍してくれているのが応援団(チア)の面々。様々な場面で三条生を後押ししてくれるチアにスポットを当ててみました。

今回、インタビューをしたのはリーダーである松浦さん(3-4)、サブリーダーの福田さん(3-2)、中村さん(3-5)の3人。指導者がいない中、この3人が中心となって曲や振り付けを決めていくそうです。松浦さんはバトントリックを今もしていますし、福田さんもダンスの経験がありました。一方、中村さんは本格的にダンスをやったことはなく、友達から誘われてチアに入ったそうですが、「初心者でもこんなにできるんだと思う時があって、そんな時に頑張ってたかなと思います」と話してくれました。中村さん曰く「ダンスは誰でも楽しめます」とのことでした。

チアの魅力について松浦さんは「一から振り付けを考えて皆でそろって踊ることが魅力なのですが、チアが先頭立って応援をリードして全

校生徒みんなで揃った応援ができることも楽しいです」と言います。さらに「三柏戦では全校生徒の皆さんからの拍手が大きくて嬉しかったです。ありがとうございました」。福田さんは「応援歌No.1を歌うときは自分たちは踊っていてその中には入れないのですが、全校生徒で指さして『三条』と叫びながら集まるのは、外から見ているだけでも楽しくなります」と全校生徒を鼓舞する応援団ならではの感想を話してくれました。

現在、チアのメンバーは23名。でも3年生が抜けると10名になるそうで今後のことが少し心配そうでした。特に1年生が4人ということで、「自分たちで振り付けも練習も日程調整も全てしている分、融通もきく兼部も可能です。学校祭を見てからでも、楽しそうだなと思ってくれたら、ぜひ入部してください」と3人が声を揃えていました。「学校祭では今までの集大成としての3年生のダンスや3学年揃っての最初で最後のダンスを披露します。精一杯頑張りますのでぜひ楽しんでください」とのことでした。

ちなみに応援団男子団員は現在ゼロ。チア団員だけではなく、男子団員も募集中とのこと。一緒に三条高校を盛り上げ、後押ししてくれる方はぜひ顧問の上田先生まで!

